

パブリック・リレーションズとジャーナリズムの異同 ～実践と規範の検討から～

早稲田大学政治学研究科ジャーナリズムコース 准教授
(社) サイエンス・メディア・センター リサーチ・マネージャー
田中 幹人



📌 PRの第一の聴衆＝メディア関係者（＝ジャーナリスト）
📌 パブリック・リレーションズ実践者(Public Relations Practitioner, PRP)が日常の中で直面する問題の大半は「メディアの問題」

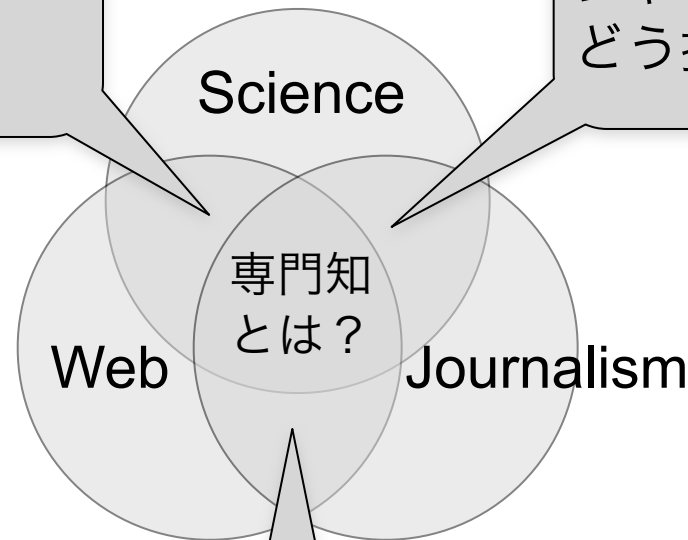
1. メディア情報生態系の変化
2. ジャーナリズム規範とPR
3. PRPとジャーナリストの協働に向けて

◆[科学, ジャーナリズム, ウェブ]の問題を[専門知]をキーワードに繋ぐ

・自然科学／人文社会学の【雑種研究者】として

科学的知識はウェブ上の
議論の空間で
どのような意味を持つ？

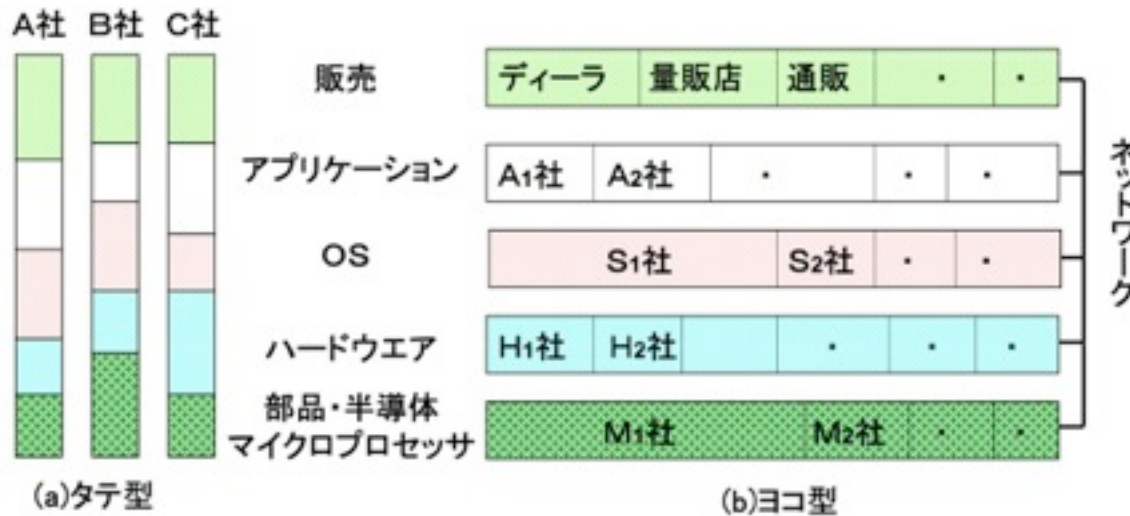
科学技術の問題は
ジャーナリズムにおいて
どう扱われる（べき）か？



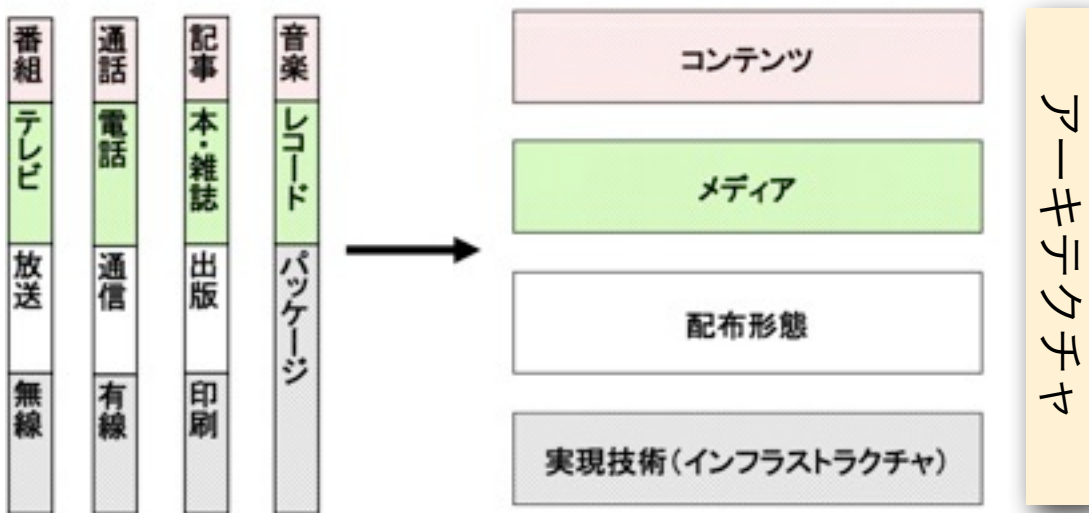
ウェブとジャーナリズムは、どのように協働したら
民主的社会に資する「議題構築」が可能だろうか？

- 1.メディア情報生態系の変化
- 2.ジャーナリズム規範とPR
- 3.PRPとジャーナリストの協働に向けて

コンピュータ

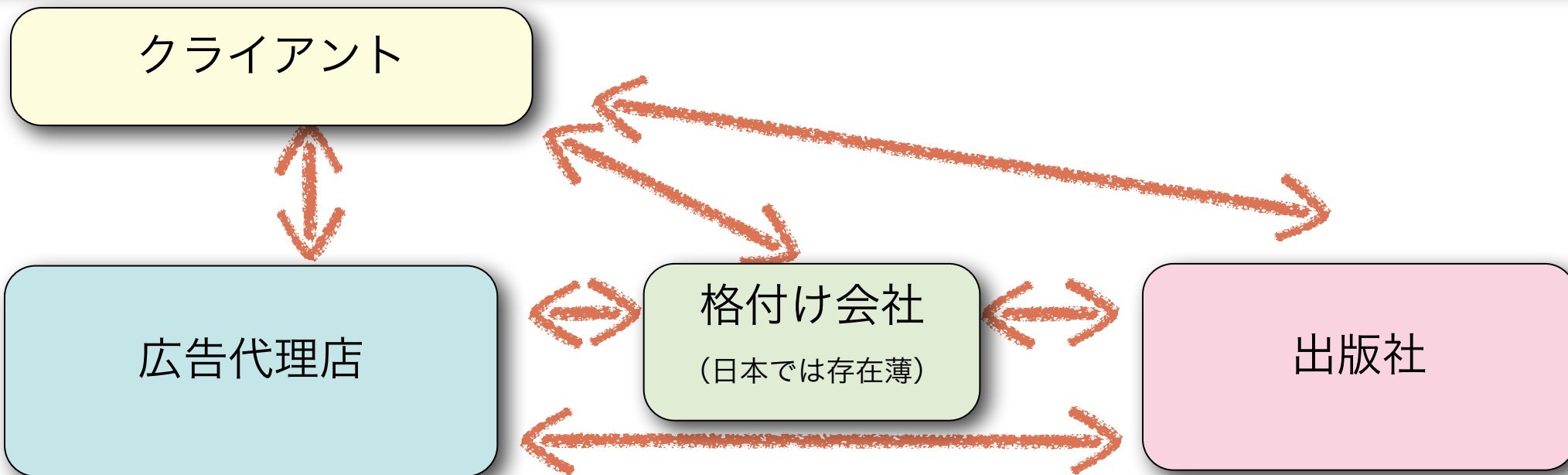


メディア



- ☑ メディア及び産業の変容は、その中で流通する情報そのものにも変化を及ぼす
- ☑ メディア史的観点からは、技術変革期にコンテンツの質は低下する
- ☑ ステークホルダーにはより強い規範・倫理が求められる時代

1985年の情報マーケティングの生態系



- ☑ 伝統的メディアの黄金時代を支えた [協働的 / 寡占的] 構造
- ☑ この全体構造が「メディア」と呼ばれた
- ☑ この時代においては、科学広報/PRは組織体が行う必要なし
 - 黙っていてもメディアが来てくれた時代 (受け身の広報)
 - 元々は直接対話。ここに至る変化は戦後から (Habermas, 1970)
- ☑ eg. 理研：受け身広報→2000-2002戦略広報の準備, →2003～実践 (服部, 2011)

インターネット後の情報”購入”生態系は以前よりも遙かに複雑



メディアの技術的変化が情報構造の変化に繋がっていく

☑産業構造の垂直統合→水平統合

☑情報のユビキタス化→仕事内容のユビキタス化

☑仕事量の増大と人員カット→一人当たり仕事量の増大

💡「吟味すべき情報量は膨大になったが、それを行う時間も手も足りない」

(Davis,2008; Erjavec, 2005; Moloney,2006)

💡「カバーすべき仕事は増えたが一つの記事に費やせる時間は減った」

(Royal Society,2008; EurekAlert!,2007; 筆者ら,2009)

☑メディア環境変化→リストラクション

→ジャーナリストの大量解雇(eg. CNN)

∴記者→PRPというキャリアパスの増大

☑しかしこのキャリアパスは「裏切り者」と見なされる

☑プレスリリースの質・量が向上（良いことのように思える）

#しかし「健全な民主社会の言論」という観点からは
必ずしも「歓迎すべき変化」とは見なされていない →なぜ？

- ☑ インターネットによって誰もが情報発信機能を持った
 - 🗣 以前：新聞・雑誌・テレビなどの伝統メディアで情報発信をするのは、専門的訓練を受けたプロのジャーナリスト主体
 - 🗣 現在：素人の情報発信でも、多数を集約し、多数の批判を総合すれば、それなりの信頼性が出てきた
 - 🗣 伝統メディア組織と、そのプロ集団は不要という市井論の登場
- ☑ 「成功した」マーケティング、「成功した」情報とは何か？
という（新自由主義的）情報生態系への変化
- ☑ 伝統的メディア構造は(PRPも)情報生態系の下層へ追いやられる

- ☑ Public Relations(PR) ≠ 広告(Publicity, Ad), ピーアール, 広報
- ☑ CSRを果たすメディア営為としてのPR
 - 🗣 Publicityの利益追求(earned)に対する批判から、存立基盤としての民主主義に対する参画(engagement)の責任を果たすため企業・組織体の情報を主体的に(owned)社会還元する行為としてPublic Relations概念が発達した(Cutlip et al., 2009)
 - 🗣 しかし、「Final Click」を中心通貨とする情報生態系の再編成は、長い間に積み重ねられてきた変化を逆行させる。

- 1.メディア情報生態系の変化
- 2.ジャーナリズム規範とPR**
- 3.PRPとジャーナリストの協働に向けて

- 両者共に啓蒙思想の落とし子
- 「真実の探求」という点では目的は一致

科学

- ☑ 方法論（ディシプリン）が共有されている。
- ☑ 規範は通常、意識されない
- ☑ オーディエンスは共同体内部
- ☑ 忠誠の対象は科学者共同体

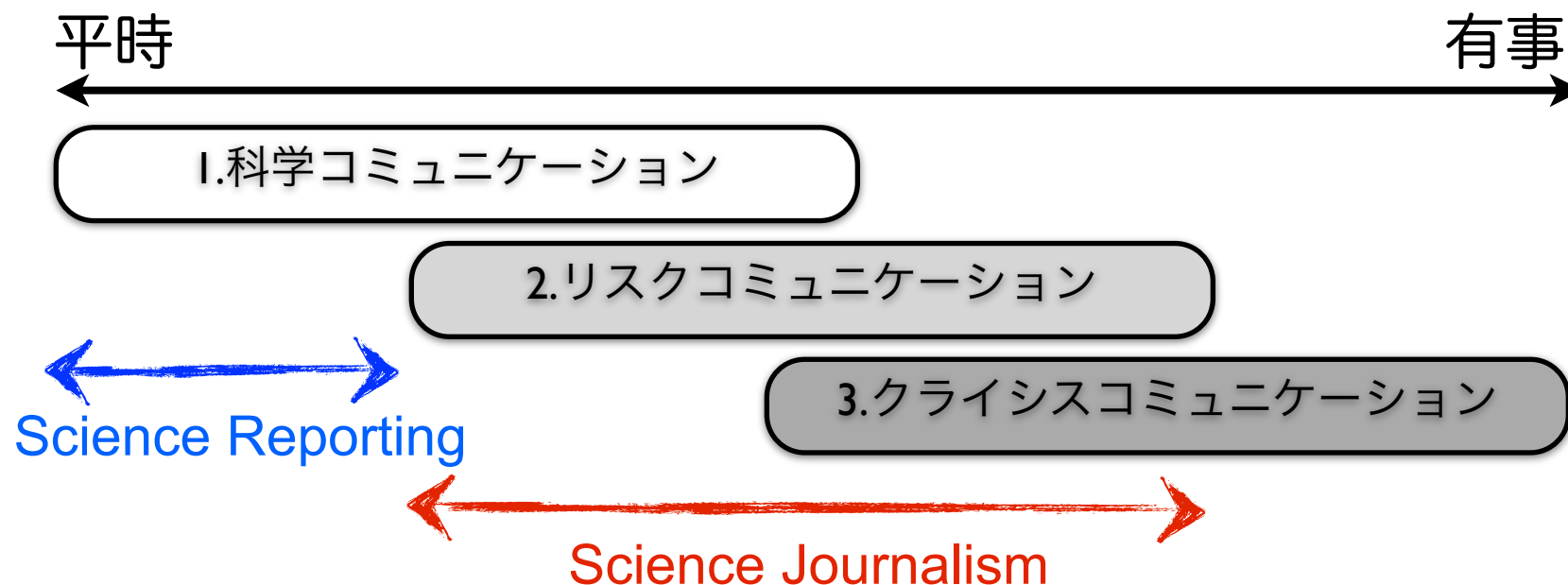
ジャーナリズム

- ☑ 方法論は暗黙知的・属人的。
- ☑ 規範は強く意識される
- ☑ オーディエンスは外部
- ☑ 忠誠の対象は市民

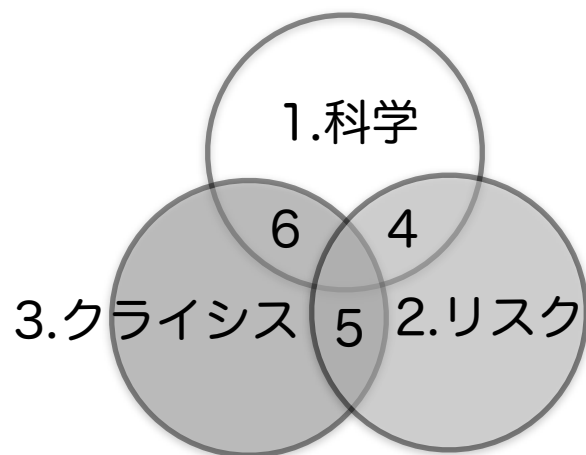
報道——科学レポーターティング：科学を伝える

——科学ジャーナリズム：科学の議題を構築する

A



B



研究者



「社会に科学を語る際の、特に重要な聴衆」

- ・ 影響力のある集団への語りを重視
(ジャーナリストや教師等、政治家は軽視)
- ・ 研究の社会への説明責任を強く意識
- ・ 「ジャーナリストは玉石混淆」

- 改善を期待する点
 - ・ 「作動中の科学」に対する理解
 - ・ リスク問題を扱う作法
 - ・ コメントの不適切な引用
 - ・ 「規定のストーリー」の押しつけ

「豊富な科学技術情報が提供されてはいる」

- ・ 科学技術コミュニティの情報発信の現状
→ 高評価
- ・ メディア空間には科学技術情報が溢れている

わかりやすく説明できる研究者が少ない

- ・ 「悪貨が良貨を駆逐している」
#メディア経験の少ない研究者ほどメディアに偏見・嫌悪感。
- ・ 報道を研究の広報誌と勘違いしている
#ニュース価値とは何かをわかっていない
- ・ 報道に求められるスピードを理解していない
- ・ 読み手が科学者ではないことを理解できない
- ・ 倫理/政治要素を含む科学問題を語らない
- ・ 広報との連携が悪い

ジャーナリスト



議題設定の問題から

研究者



何が問題なのか
わかってくれない

何が問題なのか
わかりにくい
(語ってくれない)

ジャーナリスト



PRPはこの間を取り持つ役割

議題設定の問題から

研究者



何が問題なのか
わかってくれない

何が問題なのか
わかりにくい
(語ってくれない)

ジャーナリスト



協同的な議題構築へ

PRPはこの間を取り持つ役割

研究者



ジャーナリスト



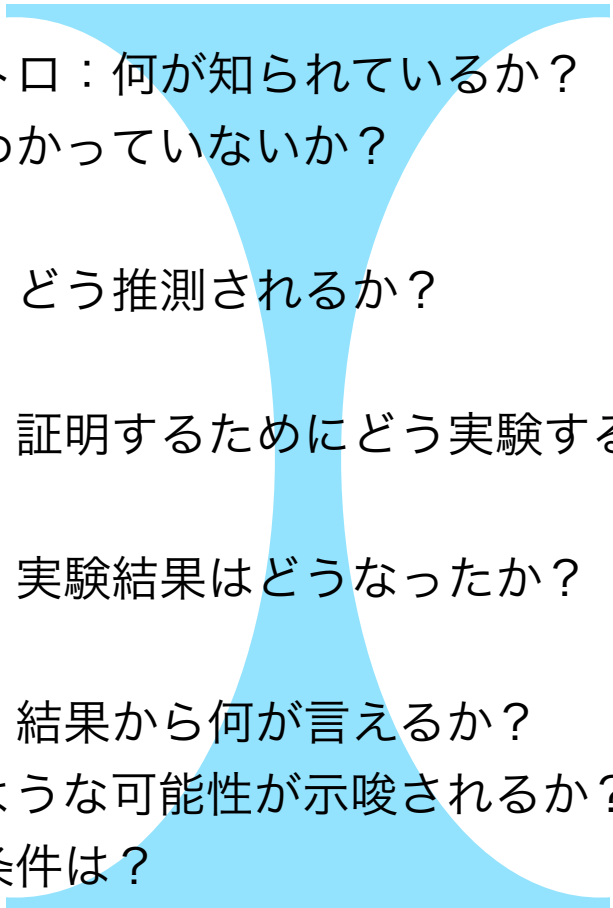
メディアの構築する
Science
議題フレーム

(理想)

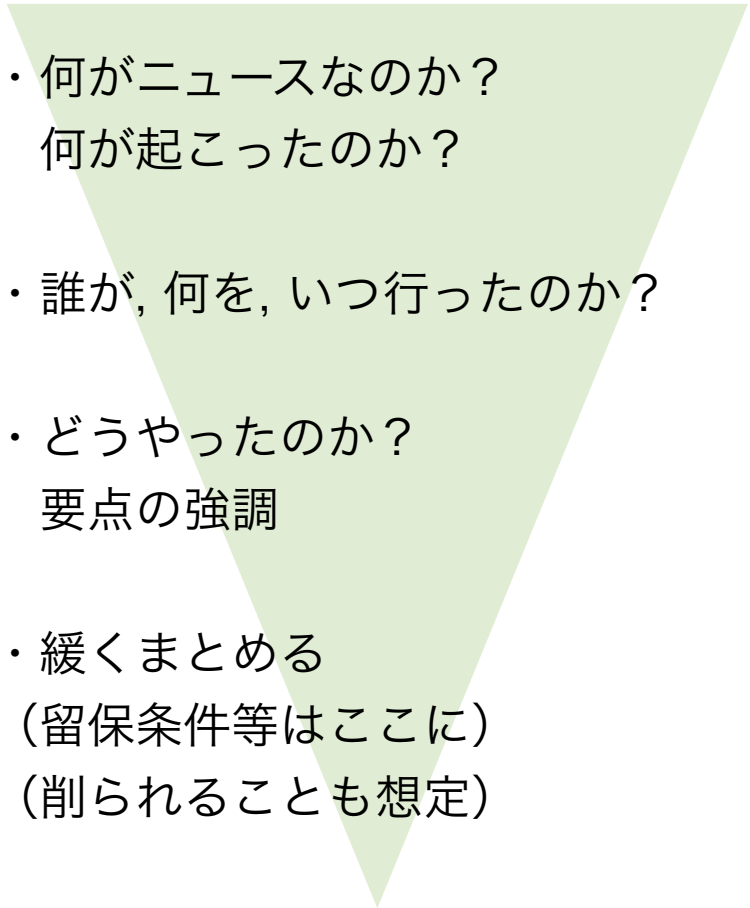
メディアの構築する
議題フレーム
(不満が残る例)

- ☑ 科学という「芯」を外さない報道
 - ☑ 報道フレーム選択はジャーナリスト側の権利
- これをPRPはどう仲介できるか？

科学：AIMRaD =砂時計型のロジック

- 
- ・ イントロ：何が知られているか？
何がわかっていないか？
 - ・ 仮説：どう推測されるか？
 - ・ 方法：証明するためにどう実験する？
 - ・ 結果：実験結果はどうなったか？
 - ・ 考察：結果から何が言えるか？
どのような可能性が示唆されるか？
留保条件は？

報道：5W1H+Q =逆ピラミッド型のロジック

- 
- ・ 何がニュースなのか？
何が起こったのか？
 - ・ 誰が, 何を, いつ行ったのか？
 - ・ どうやったのか？
要点の強調
 - ・ 緩くまとめる
(留保条件等はここに)
(削られることも想定)

井上正男（元北國新聞論説委員）の定義

- 📌 (1) ある社会共通の価値観や行動指針となる世論を形成するために
- 📌 (2) 同時代に起こっているありきたりではない出来事を
- 📌 (3) 批判精神をもって価値判断し
- 📌 (4) その結果をニュースとして、あるいは評論として
- 📌 (5) より速く
- 📌 (6) より正確に
- 📌 (7) より公平に
- 📌 (8) 社会に伝えていく
- 📌 (9) 報道あるいは言論活動

☑ 「より」：組織論的呪縛に対する諦念

☑ 「科学的正確さ」にはあまり興味が無い。面白いことが大切。

[重要度] × [世間の関心] × [わかりやすさ] = [ニュース価値]

☑ 「わかりやすい」は一方通行な翻訳。専門用語に復元できない。
(その問題はジャーナリストの方が意識している)

コヴァッチ&ローゼンステール「ジャーナリズムの原則」10原則

1. ジャーナリズムの優先的な義務は真実に捧げられる。
2. その優先的な忠誠の対象は市民である。
3. その本質は検証の方法論である。
4. ジャーナリズムに従事する者は取材対象から独立を維持しなければならない。
5. ジャーナリズムは権力の独立した監視者でなければならない。
6. 公的な批評と協働の場を提供しなければならない。
7. 重要な事柄を興味深く、関連性を持たせて報じるよう努めなければならない。
8. ニュースを包括的に、バランスが取れているように報じなければならない。
9. ジャーナリズムに従事者はそれぞれの良心に従うことが許されねばならない。
- +10. (情報の受け手となる) 市民もまた、ニュースに対する権利と責任がある。

- ☒ 公平性・中立性・不偏不党と言った言葉が無いことに注意.
- ☒ 2007年の第二版で10原則目が追加された.
- ☒ 「調査報道こそがジャーナリズムの華」 (しかし金がかかる)

- ☑ コンテンツ・ファーム（マーケット）の成長は
報道コンテンツの価値をクラウド化する
 - 📌 「視聴率至上主義」に代わる「クリック至上主義」
 - 📌 eg. Demand Media (<http://www.demandmedia.com>)
 - # 「売れる」コンテンツが「良い」コンテンツか？
 - # そうは思えないはず：そもそも科学は売れないコンテンツ

- ☑ 報道は一次情報に対する依存度をますます高めている
 - 「チャーナリズム(Churnalism)」に対する批判
 - 📌 Nick Daviesが”Flat Earth News”(2008)で指摘
 - 「現代においては80%のニュースは発表依存。オリジナルの部分は12%に過ぎない」
 - 📌 日本でも「ヨコのものをタテにする」は本来タブー
 - 📌 しかしチャーナリズム化の流れはもはや止まらない！

∴ジャーナリズムにおける調査報道は、科学における基礎研究と
同じ位置づけ（社会的意義は高い、高度なプロフェッショナルの仕事／金食い虫、
時間がかかる、なかなか意義が理解されず注目されない、意義がわかりにくい）

RIKEN Search [] Font size [] Sitemap [] Home []

Japanese | About RIKEN | Laboratories | Press release | Public relations materials | RIKEN's Institutes & centers

For scientists

- RIKEN RESEARCH
- Latest scientific achievements
- Laboratory heads
- Scientific papers
- Database
- Symposia and Seminars
- Programs for Junior Scientists

For the general public

- Videos
- RIKEN Trivia
- Events

For companies & universities

- Intellectual property & collaboration with industry
- Research-based businesses and use of facilities

Working at RIKEN

- Career opportunities
- RIKEN Gender Equality Program
- Next-generation Certification Mark "Kumamon" 2009 Certified Company

For RIKEN alumni

- RIKEN alumni email address
- RIKEN SNS

Life at RIKEN
a resource for prospective RIKEN researchers

RIKEN Donations

Access & contact information >
Library >
Site policy & terms of use >

Press Releases

Home > Press Release > 2013 > Japanese team creates cancer-specific killer T cells from induced pluripotent stem cells (iPSC)

Japanese team creates cancer-specific killer T cells from induced pluripotent stem cells (iPSC)

PDF: 35KB
January 4, 2013
RIKEN

Researchers from the RIKEN Research Centre for Allergy and Immunology in Japan report today that they have succeeded for the first time in creating cancer-specific, immune system cells called killer T lymphocytes, from induced pluripotent stem cells (iPSC cells). To create these killer cells, the team first had to reprogram T lymphocytes specialized in killing a certain type of cancer, into iPSC cells. The iPSC cells then generated fully active, cancer-specific T lymphocytes. These lymphocytes regenerated from iPSC cells could potentially serve as cancer therapy in the future.

Previous research has shown that killer T lymphocytes produced in the lab using conventional methods are inefficient in killing cancer cells mainly because they have a very short life-span, which limits their use as treatment for cancer. To overcome these problems, the Japanese researchers led by Hiroshi Kawamoto and presenting their results in the journal *Cell Stem Cell* online today, reprogrammed mature human killer T lymphocytes into iPSC cells and investigated how these cells differentiate.

The team induced killer T lymphocytes specific for a certain type of skin cancer to reprogram into iPSC cells by exposing the lymphocytes to the 'Yamanaka factors'. The 'Yamanaka factors' is a group of compounds that induce cells to revert back to a non-specialized, pluripotent stage. The iPSC cells obtained were then grown in the lab and induced to differentiate into killer T lymphocytes again. This new batch of T lymphocytes was shown to be specific for the same type of skin cancer as the original lymphocytes: they maintained the genetic reorganization enabling them to express the cancer-specific receptor on their surface. The new T lymphocytes were also shown to be active and to produce the anti-tumor compound interferon γ .

"We have succeeded in the expansion of antigen-specific T cells by making iPSC cells and differentiating them back into functional T cells. The next step will be to test whether these T cells can selectively kill tumor cells but not other cells in the body. If they do, these cells might be directly injected to patients for therapy. This could be realized in the not-so-distant future," explains Dr Kawamoto.

For more information, please contact

Juliette Savin
Global Relations Office
RIKEN
Tel: +81-4948-462-1225 / Fax: +81-4948-463-3687
Mail: pr@riken.jp

Page Top

Japanese About RIKEN

For scientists

- RIKEN RESEARCH
- Latest scientific achievements
- Laboratory heads
- Scientific papers
- Database
- Symposia and Seminars
- Programs for Junior Scientists

For the general public

- Videos
- RIKEN Trivia
- Events

For companies & universities

- Intellectual property & collaboration with industry
- Research-based businesses and use of facilities

Working at RIKEN

- Career opportunities
- RIKEN Gender Equality Program
- Next-generation Certification Mark "Kumamon"
- 2009 Certified Company

For RIKEN alumni

- RIKEN alumni email address
- RIKEN SNS

Life at RIKEN

a resource for prospective RIKEN researchers

RIKEN Donations

Access & contact information

Library

Site policy & terms of use

Churnalism.com

Churn engine to distinguish journalism from churnalism

Share this page <http://churnalism.com/le64d/>

Search saved comparisons...

Text entered

Japanese team creates cancer-specific killer T cells from induced pluripotent stem cells

www.riken.jp

4 January 2013

Researchers from the RIKEN Research Centre for Allergy and Immunology in Japan report today that they have succeeded for the first time in creating cancer-specific, immune system cells called killer T lymphocytes, from induced pluripotent stem cells (iPS cells). To create these killer cells, the team first had to reprogram T lymphocytes specialized in killing a certain type of cancer, into iPS cells. The iPS cells then generated fully active, cancer-specific T lymphocytes. These lymphocytes regenerated from iPS cells could potentially serve as cancer therapy in the future.

Pre... View full text

3 news articles may be churnalism

Article	91% cut	62% posted	2017 characters overlap	Visualisation	Side-by-side
World first as scientists create cancer-killing cells that can be injected into patients <i>MailOnline, 3 January 2013</i>					
New 'killer' stem cells could be used to treat cancer, say scientists <i>Alastair Dalton, The Scotsman, 4 January 2013</i>					
New Jab 'To Hunt Down Cancer Cells' <i>Jo Willey, express.co.uk, 4 January 2013</i>					

API | Contact | Explore | FAQs | Another quality Media Standards Trust service. Registered charity: 113680. © Media Standards Trust 2013

RIKEN

Japanese | About RIKEN

For scientists

- RIKEN RESEARCH
- Latest scientific achievements
- Laboratory heads
- Scientific papers
- Database
- Symposia and Seminars
- Programs for Junior Scientists

For the general public

- Videos
- RIKEN Trivia
- Events

For companies & universities

- Intellectual property & collaboration with industry
- Research-based businesses and use of facilities

Working at RIKEN

- Career opportunities
- RIKEN Gender Equality Program
- Next-generation Certification Mark "Kumamon"
- 2009 Certified Company

For RIKEN alumni

- RIKEN alumni email address
- RIKEN SNS

Life at RIKEN

a resource for prospective RIKEN researchers

RIKEN Donations

Access & contact information >

Library >

Site policy & terms of use >

Churnalism.com
Churn engine to distinguish journalism from churnalism

Share this page <http://churnalism.com/le64d/>

Text entered

Japanese team creates cancer-specific killer T lymphocytes from induced pluripotent stem cells
www.riken.jp
4 January 2013

Researchers from the RIKEN Research Centre for Allergy and Immunology in Japan report today that they have succeeded in creating cancer-specific, immune system cells called killer T lymphocytes (T lymphocytes specialized in killing a certain type of cells) from induced pluripotent stem cells (iPS cells). To create these killer T lymphocytes, the team first had to reprogram T lymphocytes specialized in killing a certain type of cancer, into iPS cells. The iPS cells then generated fully active, cancer-specific T lymphocytes. These lymphocytes regenerated from iPS cells could potentially serve as cancer therapy in the future.

Pre... View full text

3 news articles may be churnalism

- World first as scientists create cancer-killing cells that can be injected into patients**
MailOnline, 3 January 2013
- New 'killer' stem cells could be used to treat cancer**
Alastair Dalton
The Scotsman, 4 January 2013
- New 'Jab' To Hunt Down Cancer Cells**
Jo Willey
express.co.uk, 4 January 2013

API | Contact | Explore | FAQs | Another quality Media Standards Trust service

Churnalism.com
Churn engine to distinguish journalism from churnalism

Share this page <http://churnalism.com/le64d/#44fa2>

Text entered

Japanese team creates cancer-specific killer T cells from induced pluripotent stem cells
www.riken.jp
4th January 2013

Researchers from the RIKEN Research Centre for Allergy and Immunology in Japan report today that they have succeeded for the first time in creating cancer-specific, immune system cells called killer T lymphocytes, from induced pluripotent stem cells (iPS cells). To create these killer cells, the team first had to reprogram T lymphocytes specialized in killing a certain type of cancer, into iPS cells. The iPS cells then generated fully active, cancer-specific T lymphocytes. These lymphocytes regenerated from iPS cells could potentially serve as cancer therapy in the future.

Previous research has shown that killer T lymphocytes produced in the lab using conventional methods are inefficient in killing cancer cells, mainly because they have a very short lifespan, which limits their use as treatment for cancer. To overcome this problem, the Japanese researchers led by Masaki Kawamoto and presenting their results in the journal Cell Stem Cell online today, reprogrammed mature human killer T lymphocytes into iPS cells and investigated how these cells differentiate.

The team induced killer T lymphocytes specific for a certain type of skin cancer to reprogram into iPS cells by exposing the lymphocytes to the "Yamanaka factors". The "Yamanaka factors" is a group of compounds that induce cells to revert back to a non-specialized, pluripotent stage. The iPS cells obtained were then grown in the lab and induced to differentiate into killer T lymphocytes again. This new batch of lymphocytes was shown to be specific for the same type of skin cancer as the original lymphocytes. They maintained the genetic reprogramming enabling them to express the cancer-specific receptor on their surface. The new T lymphocytes were also shown to be active and to produce the anti-tumor compound interferon γ.

"We have succeeded in the expansion of antigen-specific T cells by making iPS cells and reprogramming them back into functional T cells. This work also will be to test whether these T cells can selectively kill tumor cells but not other cells in the body. If they do, these cells might be directly injected to patients for therapy. This could be used as the next-generation future," explains Dr Kawamoto.

News article

World first as scientists create cancer-killing cells that can be injected into patients
MailOnline
3 January 2013

Your rating

Churnalism.com rating

Churn statistics

World first as scientists create cancer-killing cells that can be injected into patients

91% cut

62% posted

2017 characters overlap

Full results listing

API | Contact | Explore | FAQs | Another quality Media Standards Trust service. Registered charity: 113880. © Media Standards Trust 2013

では、なぜこうしたことが起こるのか？

☑小メディアほどプレスリリースをそのまま用いる (Morton & Warren,1992)

☑大メディアほどプレスリリースを入れる余地があるので使う
(Walter & Walters,1992)

いずれにせよプレスリリースは組織の利益を第一の目的とし
て、”Newsready”であることを目指す

(Newsom et al.,2004; Theaker,2001;Oliver,2007)

ジャーナリストから見たプレスリリース

☑事前に下ごしらえが済んでいるニュース素材である (Jacobs,1999)

☑「カメラ映りのいい」素材が好まれる (Morton,1988)

ジャーナリストはプレスリリースに何をするか？

☑媒体のスタイルに合わせ、内容をだいたい半分にする (Walters et al.,1994)

☑言語的・実践的フィッティング (Jacobs,1999)

☑ジャンル上の矛盾を解消しようとする (Pander Maat,2008)

本来は、批判的検討の素材として使わなければならないはずだが…

民主社会の基盤：「情報(意見)が多様であり、またその多様な意見に対してのアクセス権と批判や議論の権利が守られていること」

(Mill,1848;Sunstein,2003 etc.)

☑️ 今や「パブリック・リレーションズ・ニュース(PRN)」が氾濫している。(多様性の低下) (Erjavec,2005)

☑️ 情報に対する権力の分散(良いことの様だが…楽観的に過ぎる)

🔊 震災後は伝統的メディアの方が多様な意見を保持(田中,丸山,標葉,2012)

☑️ ジャーナリズム＝「第四権力」；「第五権力(インターネット・メディアorPR)」の台頭が以前より混乱を深めている側面も

🔊 eg."Climate Gate"(Holliman,2011; Davies,2008)

☑️ 批判的言説分析：「プレスリリースのほとんどは市民ではなく、権力を持つエリートに捧げられている」(Erjavec,2005)

(エリートの一方向的な議題設定ではなく) 公共圏における議題構築が可能になった時代だからこそ、その責任はステークホルダーに分散した。
→その中ではPRPは特に重要な倫理・規範的責任を負う。

- ☑ ジャーナリズムの課題：規範の実施のために必要な、公権力の監視・批判に不可欠な組織的調査報の道遂行能力をどう担保する？
- ☑ パブリック・リレーションズの課題：（勃興しつつある）マーケティングの責任論と どう歩調を合わせ退行を回避するか？
- ☑ フラット化する社会においては、ほとんどのニュースはプレスリリースの焼き直しに過ぎない(Davies,2008; Sissons,2012)
(∴マーケティング倫理こそが規範の中心、という考え方へと繋がる)
- ☑ 「我々は変化後のメディアという新種のリヴァイアサンに対し、個にして全としてのペンギンの存在をどう調和させるのか？」(Benkler,2011)

「メディアは会話を構成し、決定を左右し、個人存在に影響を及ぼし、技術の歩みに寄り添いながら技術発展のリズムをマッサージする。」(Entman & Rojecki, 2000)
この過程において「道徳や社会的価値が寸断され、方向づけられるのと同様、メディアの倫理は技術社会において生を検証するための重要な『アリーナ(Ellul, 1969)』となる」(Christians, 2007)

→<それでは新たな時代のアクターに求められる規範／方法論とは何か？>

- 1.メディア情報生態系の変化
- 2.ジャーナリズム規範とPR
- 3.**PRPとジャーナリストの協働に向けて**

科学

- ☒ 方法論（ディシプリン）が共有されている。
- ☒ 規範は通常、意識されない
- ☒ オーディエンスは共同体内部
- ☒ 忠誠の対象は科学者共同体

ジャーナリズム

- ☒ 方法論は暗黙知的・属人的。
- ☒ 規範は強く意識される
- ☒ オーディエンスは外部
- ☒ 忠誠の対象は市民

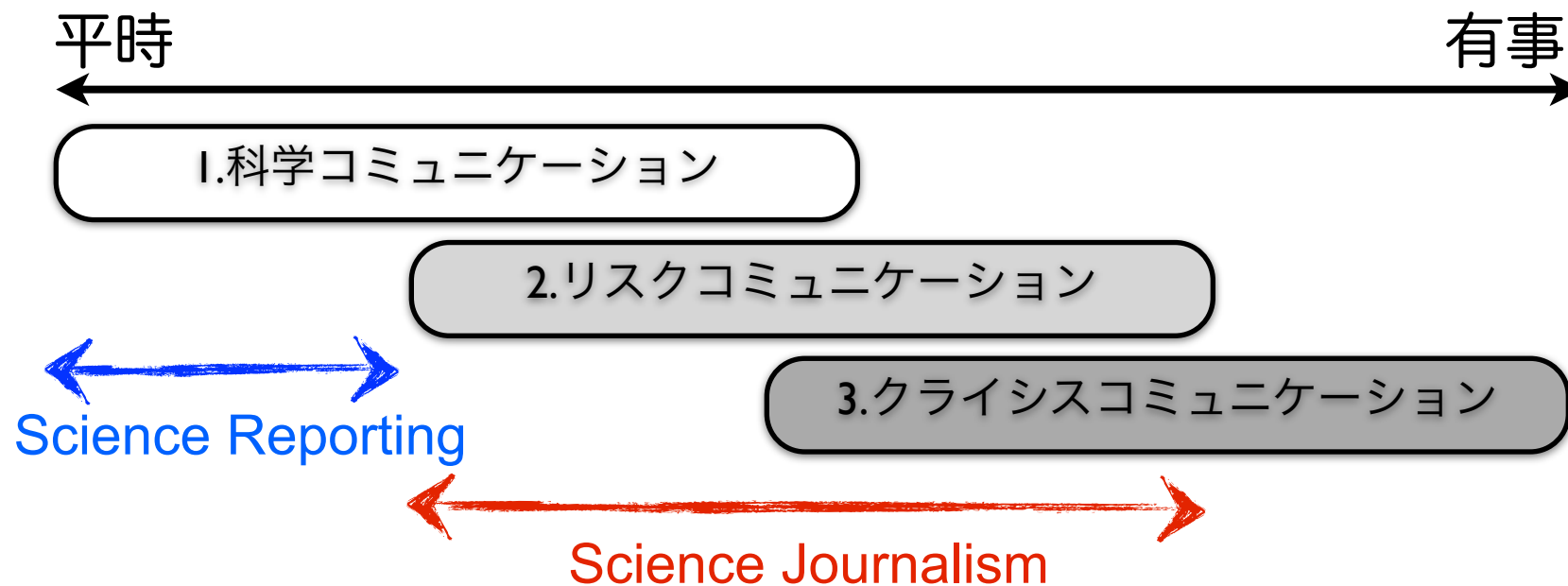
パブリック・リレーションズ

- ☒ 方法論は暗黙知的・属人的。
- ☒ 規範は強く意識される （べき）
- ☒ オーディエンスは外部
- ☒ 忠誠の対象は 組織？公共？

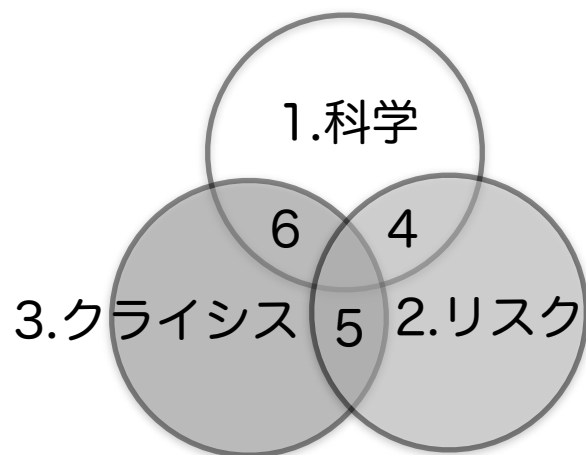
📍 実はかなりジャーナリズムと近い立場に立たされる
（立たねばならないはず）のPRP

📍 科学とジャーナリズム、両者の仲介者として何が出来るか？

A



B

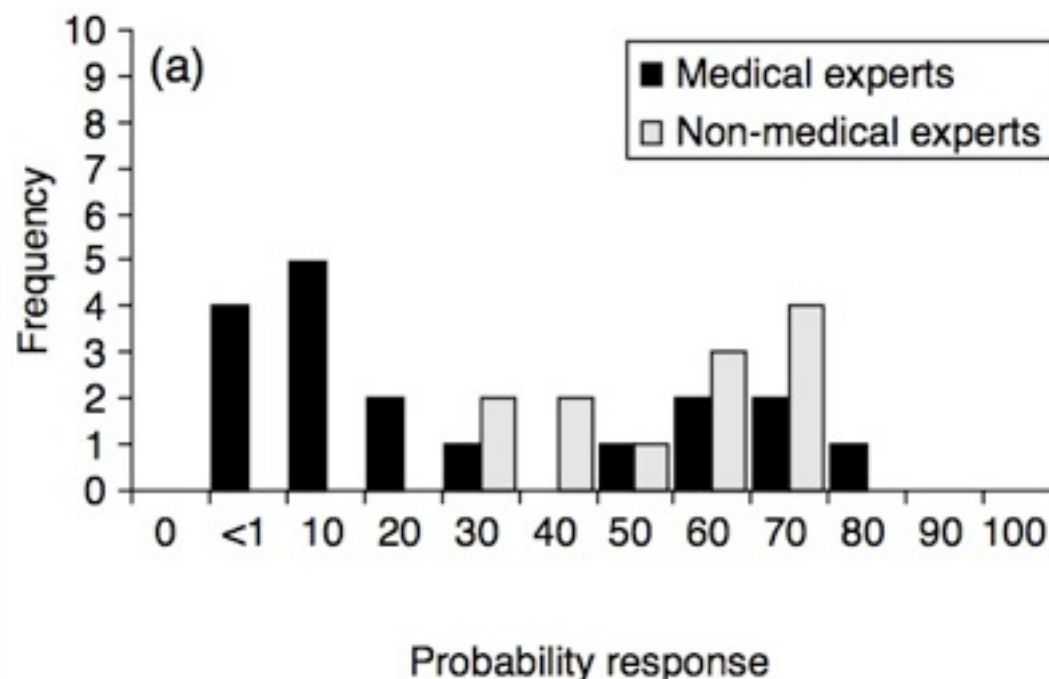


- ☑ 専門性を持つこと＝ある特定の観点・視点を持つこと
- ☑ これは「自分だけは冷静である」という錯覚を生む（第三者効果）
- ☑ この錯覚からは逃れられない。

👤意識して減少させることは可能

例題：「PRPが仲介する専門家の知見が、公共にとってのリスク見積もりを含んでいる場合、PRPはどうすべきか？」

（震災後に原子力のPR担当だったらどうするか？）



パンデミックH5N1のリスクに対する専門家のリスク見積もりの分布。非専門家はリスクを高く見積もる傾向がある一方、専門家は基本的にリスクを低く見積もるが、一部が極端に高く見積もる、と2極化する傾向にある(W. Bruine De Bruin et al.,2006)

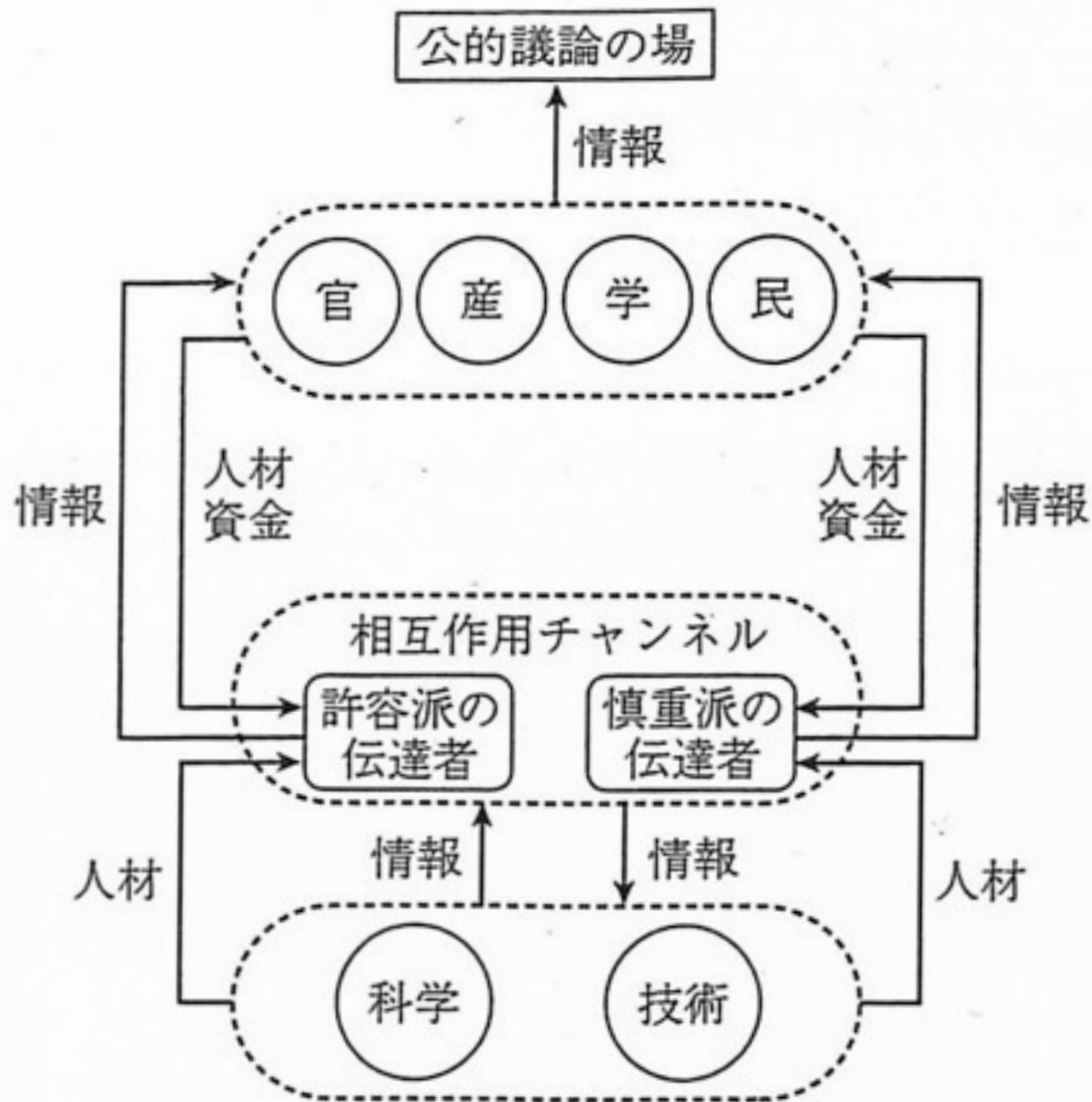
- ☑ 「わかりやすい」プレスリリースは本当に良いものか？
 - 📍 チャーナリズムを抑制しつつ、Publicityを実現するには？
 - 📍 研究の問題点を伝えるとき：自分はどのようなバイアスの中にいるか？
- ☑ 研究者へのジャーナリストのインタビューに同席することの議論
 - PRP：「（社会リテラシー不足からの）失言が心配」「知財問題」
 - ジャーナリスト：「真の問題を発見しにくい」「調査報道できない(告発を受けられない)」
 - 📍 <どうやって・どの程度>研究者を守るか？
- ☑ 社会的意義を強調することは本当に正しいか？
 - eg. 動物実験レベルの発見に対するK記者のポリシー：
「患者さんをぬか喜びさせる報道はしない」
- ☑ そのPRは本当に「公共のため」だろうか？
 - 📍 科学的は価値中立ではない
 - > 科学の営みが必ずしも公共の利益には繋がらない
 - 📍 忠誠の対象が二律背反性を持ったとき、自分はどうするのか？

「…専門家と非専門家のあいだを繋ぐようなインタープリターや…コミュニケーターの役割を活用して大きな不確実性のともなう問題に社会全体で取り組もうとするなら、立場を異にする複数のファシリテータなりコミュニケーターを、多元的に競わせることが不可欠である」

-松本三和夫『構造災』岩波新書(2012), pp192

「立場明示型の伝達者」

- ・自分たちはどのような立場か
 - ・自分たちの言明・説明・仲介にはどのようなバイアスがあるか
- 「日本的な議論」の下手な点
e.g.)ジャーナリズム／メディア



松本三和夫『構造災』岩波新書(2012), pp192

- ☑ 「相手は自分と異なる職業規範に則っている」ことを理解し、敬意をもって接すること
- ☑ 「自分の忠誠の対象は何であるか？」という意識：公共？組織？
→有事の際に対応しても不可能。組織トップの理解と保護が必要。
- ☑ 「長期的には誠実さこそが最良の選択である」ことへの理解
- ☑ 「透明性」の正しい理解：単なる情報公開ではない。
立場明示／手続きの公正性（検証可能性）を踏むことが大切。
- ☑ 科学とメディアの間で起こった問題事例を学んでおく必要性
（自分ならば、どうするか？）
 - 💡 **水俣病**：御用学者はなぜそう呼ばれるようになったのか？
 - 💡 **タバコ産業とPR**：誠実な研究が全体として偽科学を擁護？
 - 💡 **環境問題とPR**：陰謀論を切り捨てるのではなくどう対処する？
 - 💡 **3.11以降の問題**（地震・津波・原発・放射線）
ex. MMRワクチン論争

～ご静聴有り難うございました！～

